

平成 29 年度

海外帰国生 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 14 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された文字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

1

次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 切りカブの上に座る。
- 2 図書委員としてツトめを果たした。
- 3 王様にハンキをひるがえす。
- 4 はじめて会った人と意気トウゴウする。
- 5 コジ成語を学ぶ。
- 6 給湯器の点検をおこなう。
- 7 憲法は国の法律の大本だ。
- 8 おじは上背がある人だ。

2

次の——線部の慣用句の使い方がふさわしくないものをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1

ア 歴史的快拳を達成した人物に頭が下がる。

イ セーラー服を着る日を首を長くして待つ。

ウ けがを防ぐために口をすっぱくして忠告する。

エ 今日のこととは自分ひとりの腹におさめておく。

オ 近所には手を焼きたがる人がいる。

2

ア インターネットの情報を鵜呑みにしてしまう。

イ 目標に向かって尾ひれをつけて取り組んでいく。

ウ 学級委員長の鶴の一声で問題が解決した。

エ 共子さんとは不思議と馬が合う。

オ 思わず言ったことがやぶへびとなった。

3

ア ドرامaは竹を割ったような意外な結末をむかえた。

イ そんなに根掘り葉掘り聞かないでほしい。

ウ 近所の家に住む姉妹はうり二つで見分けがつかない。

エ 今まで積み重ねてきた努力が実を結んで合格した。

オ いくら連絡しても梨のつぶてだ。

4

ア 失敗をして太郎の様子は青菜に塩となった。

イ 手前みそながら、私の絵はクラスで最高の作品だと思う。

ウ 大事な話し合いの場で茶々を入れておこられた。

エ 駅伝の選手へ油をしぼるように大きな声援を送った。

オ 単純な計算問題は私にとって朝飯前だ。

次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

だっこ券

市原 信雄
いちばら のぶお

三歳^{さんさい}くらいの子
さつきから どぶ^{どぶ}の縁^{ふち}に立つ
手に何やら紙片^{しへん}を握^{にぎ}っている

① とくべつだっこ券

いつも抱^だつこの下の子の手前
母親が氣^きを利^きかせたか
淀^{よど}んだ流れを前に

② 時が止まっているよう

券に目をやると

③ 思い切^なって投^なげ込んだ

もう抱っこはしてもらえない
勇気の決断の下に
何があったのだろう

1 — 線①「とくべつだっこ券」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア いそがしい母親に代わって父親や祖父母に抱っこしてもらえる券
イ 発想力のある母親が下の子を抱っこしてもらうために作った券
ウ いつもとは違^{ちが}ってサーブिस満点の抱っこをしてもらえる券
エ なかなか抱っこしてもらえないお兄ちゃんが抱っこしてもらえる券
オ 下の子と一緒^{いっしょ}に抱っこしてもらるように用意された券

2 — 線②「時が止まっているよう」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 流れの前に立つ男の子の様子がまるで絵のようにかわいらしいこと
イ 幼い男の子がたった一人で心細さとたたかっていること
ウ 男の子が身じろぎもせずに流れをずっと見つめていること
エ 男の子が淀んだ流れの前で遊びに夢中になっていること
オ どぶの流れがゆっくりで、あたりが静まりかえっていること

3 — 線③「思い切^なって投^なげ込んだ」とありますが、そのときの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 抱っこは下の子にゆずろうというお兄ちゃんとしての決意
イ 下の子のためには自分が我慢^{がまん}するしかないという悲しみ
ウ 下の子ばかりがかわいがられるという不公平さに対する怒^{いか}り
エ お兄ちゃんとしてふさわしい行動を取れた自分への誇^{ほこ}らしさ
オ お兄ちゃんらしくすることで母親からほめられたいという願い

こんなものを思いつくほどの親だ

お兄ちゃんとしての自覚を

上手に促されたのだろう

だとしたら

④ 下の子に対する思いを

兄としての自覚が

断ち切ったことになる

流れていく券が

⑤ 少し恨めしかっただろうか

(『子どものための少年詩集2015』

銀の鈴社 による)

4 — 線④「下の子に対する思い」とありますが、その説明としてふさわしいものを

次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 小さくかわいらしい大切な存在として愛おしんでいる。

イ 母親に存分にあまえられる立場であるのをうらやんでいる。

ウ 家族みんなに無条件で愛される存在として憧れている。

エ 生まれたばかりでまだ家族として受け入れられないでいる。

オ 両親の愛を自分から奪い取った敵のように強く憎んでいる。

5 — 線⑤「少し恨めしかっただろうか」とありますが、そのときの男の子の気持ち

としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分がこんなに悩んでいるのに、まったく気づいてくれない親が憎らしい。

イ せっかくのだつこ券をうまく使えなかった自分の不器用さが腹立たしい。

ウ 無自覚なままに両親から思い切りあまやかされている下の子がねたましい。

エ 特別に作ってくれた券を使わず、母親の配慮をむだにした自分が情けない。

オ 一度券を捨てた以上は、もう自分からあまえられないのが残念だ。

4 次の文章は、解人^{かいと}が父母と一緒^{いっしょ}に東京を離れ^{はな}、岩手の田舎^{いなか}・朱瑠^{しゆる}にあり、祖母と「おひこさん」と呼ばれる曾祖母^{そうそぼ}が一緒に住んでいる家へと引越^ひした後の話です。不思議なことが起こったらそれは朱明山^{しゆめいざん}の山神様のしわざだから「しゆるしゆるばん」と唱えるといひ、と祖母から教えられた解人に、次々と不思議な出来事が起こります。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

新しい学校生活の初日は、田んぼで方向を見失ったり、①教室でクラスの子じやない男の子におかしなことをいわれたり、先行きが思いやられる幕開けだった。しかしその後はとくにおかしなことは起こらず、下校時間となった。

(朝みたいなのはこりこりだ)

解人は畦道^{あぜみち}を避けふつうの通学路を歩いて帰った。それでも変なことはないかと常に緊張^{きんちやう}しながら辺りを見まわす。家が見えてきた時には、②ほつと胸をなでおろした。家の前では、おばあちゃんが掃除^{そうじ}をしていて、解人に気づくとほうきを動かす手を止めた。

「おばあちゃん、ただいま」

「おかえり。ちゃんと帰ってきて良かった。朝は迷ったんだって？」

解人のことを心配して、帰りを待っていてくれたのだ。

「うん。ごめんね、心配かけて」

そういった後、迷ったのとはちよつと違^{ちが}うけど……と心の中でつけたした。おばあちゃんは、掃き集^{あつ}めた白いコブシの花びらを、ちりとりに入れ始めていた。

解人は、門の脇^{わき}に立つ木を見上げた。引越してきた時はまだ咲いていなかったが、ここ数日で、ティッシュペーパーをちぎったような白い花を枝いっぱい咲かせている。それが次々と道に落ちるのだった。

「掃除、大変だね」

おばあちゃんは、花びらの入ったちりとりを持ったまま「ん？」と顔を上げた。

「きつと伐^きられたらたまらねど思つて、花つけたんだべ」

まるで③Aが③Bと同じように、心を持っているかのようないい方だ。実はこのコブシの木は何年も花を咲かせておらず、枝だけがどんどん伸びていたため、去年、人に頼^{たの}んで枝を払^{はら}ってもらったのだという。おばあちゃんの子どもの頃^{ころ}には④「成る木責め」という風習があり、お正月に柿の木の幹にノコギリでちよつとだけ傷をつけて、「なるかならねが、ならねば伐るぞ」と

木をおどしたのだそうだ。柿の木は伐られたらたまらないとばかりに、花を咲かせて甘い実を実らせる。コブシの木も、伐らないで欲しくて花を咲かせたと、おばあちゃんは思っているのだった。

「おひこさんの部屋の前のサクラも、伐ってみればいいがね」

おばあちゃんが、つぶやいた。それは、庭の真ん中にある小さな木のことだった。おばあちゃんが子どもの時からあるが、まったく花を咲かせないらしい。このコブシや畑の一角にでんと構えている柿の木に比べると、そのサクラは本当に小さい子どものような木だった。

おばあちゃんは、「さて、菜っ葉の種を蒔く準備しねば」と腰を伸ばし、畑のほうへ行った。

(せっかく朱瑠ではこれからサクラが咲くのに、このうちのサクラは咲かないのか……)

そんなふうに思いながら、解人は庭に行った。ところが……

その細い幹の横に、男の子が立っている。後ろ姿だが、ランニングシャツに半ズボン。今朝教室で会った男の子だ。

(近所の子だったのか)

「おい」と、その背に声をかけた。

男の子は解人をふり向きもせず、おひこさんの部屋に体を向けていた。

用事があるて来ているのかとも思ったが、それならそれで、なんとかいってでもいいはずだ。

「解人、帰ったの？」

家の中からママの声がした。ママもまた、解人のことを心配して待っていたのだ。

玄関の方に、「うん。ただいま」と叫ぶと、

「朝は心配して、あちこちさがしたのよ」とママが出てきた。

「慣れてないからね」

解人はママに言い訳ともつかない返事をした。だが直後、「えっ」と叫んで⑤した。さっきまでそこにいた男の子の姿がなくなっていたのだ。

(こっちは来ていない。ということは、庭の植え込みから、外に出たのか)

「おばあちゃん、今男の子がこっちに来なかった？」

あわてて畑へ行くと、鍬で畑に(注)畝を作っていたおばあちゃんは、「え？ 誰も来ねよ」とけげんそうに顔を上げた。

「ランニングシャツに半ズボンの子。ええーっと、赤茶色い髪の毛で色の白い子だった」

さっきの子の姿を思い浮かべ、伝えたが、おばあちゃんは首をかしげるだけだ。

「近所にぼくらいか、少し年下の男の子いる？」

「この辺には、二年生の子がいるくらいだな」

二年生には見えなかった。

「んだ、解人。あとで、ちゃぶ台の上さある葉書を出しにいつてけねが？」

話はそこで終わり、解人は⑥もやもやした気持ちを抱えたまま「いいよ」とうなずくと、茶の間に葉書を取りに向かった。

郵便ポストは、朱明山の方向に歩いて、最初の道を右に曲がり、少し行ったところにあると、⑦おばあちゃんが教えてくれたところ。その道がいつまで歩いても、ポストはない。そのうちに舗装は途切れ、家もまばらになってきた。道を歩いている人もいない。歩く速度はしだいに落ち、とうとう解人は立ち止まった。

（今朝もだったけど、まるでなんだか妙な力に邪魔されているみたいだ）

そんな思いが頭をもたげ、あきらめて引き返そうかと思った。しかしその時、前方から自転車 came。解人はその自転車を「すみません」と引き止め、ポストの場所を尋ねた。

「ポストだば、この先、いちじょういわさ入るどこ。バス停の横だ」

答えてくれたのは、おじさんというよりおじいさんに近い男の人で、片足について自転車に乗ったまま、解人が向かっていた方をふり返った。

「え？ いちじょうう？」

「一畳岩。朱瑠川の真ん中さある岩でな。一畳一畳くれえの岩だ」

（この先に朱瑠川があるのか。そして、一畳岩という岩が……）

教室で会った子が「朱瑠川さいたやつ」と解人のことを間違えていたことを思い出し、急にその川へ行ってみたくなった。男の人に札をいうと、解人はそのまま足を速めた。

やがて古い筒型のポストを見つけた。辺りには、一軒の家もない。

（こんな不便なところに手紙を出しにくる人がいるのだろうか、郵便屋さんが手紙を集めてくるのだろうか）と不安になったが、手に持っていた葉書をポストの口に差し入れた。朱色のペンキがはげかけたポストは、音も立てずにその葉書をのみ込んだ。

かたわらにあるバス停のポールは少し斜めにかたむき、錆びびっている。その丸い案内板には、〈神の山〉と書かれていた。

（神の山……。朱明山のことだ）

バス停の横には人がひとり入っていけるほどの敷道やぐみちがあり、朱明山の頂が見える。ここは朱瑠川、そして朱明山の入り口なのだ。
つた。

注 畝 Ⅱ 作物を植えるために土を盛り上げたところ

(おおぎやなぎ ちか『しゆるしゆるばん』福音館書店ふくいんかんしよてん による)

1 — 線①「教室でクラスの子じやない男の子におかしなことをいわれたり」とありますが、その男の子の説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア ランニングシャツに半ズボン姿である。
イ 解人をポストまでたどり着けないようにした。
ウ 解人のことを朱瑠川にいたと勘違いかんがひしていた。
エ おひこさんの部屋を向いて立っていた。
オ 赤茶色い髪の毛で色が白い。

2 — 線②「ほつと胸をなでおろした」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
ア 朝とは違いちが仲良くなった友人に案内してもらったことができたから。
イ 目的地にたどり着けないことがよくある土地だと聞いていたから。
ウ 近所の人が不親切でだれも道を教えてくれなかったから。
エ 朝のような変な目にあわないように気を張っていたから。
オ 新しい学校に慣れず帰日も迷子になりそうだったから。

3 ③A、③Bにあてはまることばを文章中から探し、それぞれ漢字一字で書きぬきなさい。

4 — 線④「へ成る木責め」という風習」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 他の家よりも甘い実を実らせるために秘密に行う儀式ぎしき

イ 柿の実を増やすことで子孫繁栄しそんはんえいを祈る儀式

ウ 木をおどして甘い実を実らせようとする儀式

エ 余計な実の数を減らして実を甘くさせる儀式

オ 木の幹に傷をつけることで弱らせようとする儀式

5 ⑤ にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ニヤニヤ イ メソメソ ウ ビクビク エ ハラハラ オ キヨロキヨロ

6 — 線⑥「もやもやした気持ち」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 確かにいたはずの男の子がいつの間にか消えてしまったことを不思議に思う気持ち

イ 祖母が男の子の正体を隠かくそうとすることを不服に思うが、それを言えないでいる気持ち

ウ サクラの木の横にいた男の子が挨拶あいさつもなしに消えてしまった理由をなんとか知りたいと思う気持ち

エ ポストにたどり着けなくされたことで、山の神の力を信じなければいけなくなった気持ち

オ まるで妙な力に邪魔じゃまされているみたいに物事がうまく行かず、納得がいかない気持ち

7 — 線⑦「おばあちゃん」とありますが、その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア いつでもよく働くしつかり者である。

イ 役に立たないものを思いきって捨てるいさぎよさがある。

ウ 田畑の広がる田舎で昔ながらの暮らしを続けている。

エ 解人にはなじみのない風習を信じている。

オ 解人が迷子になったのを心配する優しい人である。

8 次の中から、この文章の内容と合っているものには○、合っていないものには×を、それぞれ記号で書きなさい。ただし、すべて同じ記号で答えてはいけません。

ア 新しい学校では今まで体験したことのないおかしい出来事がたくさんあり、解人は緊張のあまり疲れてしまった。

イ 祖母と母は、解人が登校時に道に迷ったと心配していたが、実は解人は迷ったのではなくわざと違う道を自分で選んだ。

ウ 祖母の家の門の脇に生えるコブシの木は、〈成る木責め〉の成果が出て今年初めて花を咲かせた。

エ ポストの場所が朱瑠川に近いと聞いた解人は、今朝男の子に言われたことを思い出して、朱瑠川に行きたくなった。

オ 遠くまでおつかいに出て不思議な気配が高まったように感じた解人は、神の山のすぐ側にいることに気がついた。

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい（なお、途中に挿入された詩などを省略しています）。

①「弁当の日」という興味ぶかい試みがある。二〇〇一年、香川県綾川町の滝宮小学校ではじまった。②この試み自体は、「食育」のプログラムとして位置づけられており、「地域に根ざした食育コンクール二〇〇三」（食育推進協議会・（社）農山漁村文化協会主催）で最優秀賞を受賞している。「弁当の日」は、子どもたちが買い出し、調理、箱詰め、片づけという一連のおべんとうづくりの過程のすべてをおこなう日だ。「親はけっして手伝わないで」というのが決まりになっていて、「弁当の日」には、子どもたちが自分でおべんとうをつくって学校に持ってゆく。

「弁当の日」のホームページによると、二〇一二年一月の時点で「弁当の日実践校」は一〇八〇校に上る。「実践校」の条件は、「子どもだけ（自分）でつくる」という決まりを設けていること。子どもが早朝に（注①）厨房に立ち、あれこれと試しながら手を動かすことこそが、「弁当の日」が目指す「学び」の源泉だという考えからである。「弁当の日」に坎する書籍や記事には、いきいきとした実践報告がたくさん紹介されている。なにより、③大きなテーブルの上にカラフルなおべんとうがたくさん並べられているようすは、見るからに楽しい。テーブルを囲む小学生たち、さらに外側で眺める大人たち。全員が笑顔だ。小学生を対象にはじまった試みが、（現場の状況に合わせて修正されながら）「大学生の弁当の日」のような形で実施されている例もあるという。「弁当の日」では、段取りを考えること、（親の手を借りずに）自分でつくることなど、一人ひとりの能力の（注②）伸長を期待しつつ、その先にある「見せっこ」も大切な過程として位置づけている。ほかの人がつくったおべんとうをのぞき込み、その出来を見て、憧れる気持ちが芽生えれば、それは、次なるおべんとうづくりへの意欲に変わるからだ。【ア】自分のおべんとうは自分でつくるのだが、それをお互いに「見せっこ」することで、自分の位置づけがわかる。大人による批評や評価ではなく、「きれい」「美味しそう」「上手」といった友だちの素直な反応を受け取りながら、おべんとうづくりをふり返ることになる。【イ】「見せっこ」をとおして、自分の能力やセンスを知るのだ。【ウ】

【エ】

現代の子どもたちにとって、おにぎりは、（自分の手でつくるのではなく）プラスチックのフィルムに包まれて売られているの（注④）が一般的な姿かもしれない。「切り身」でしか見たことがないため、魚の姿を知らない子どももいると聞く。【オ】おべんとう

うも、どこかで買うものだと思っても不思議ではない。お茶でさえ、ペットボトルで買うのが日常的になってきているのだ。「弁当の日」は④方法でありながら、私たちの毎日の食卓^{しょくたく}がおびただしい数の工業製品で成り立っていることに気づきかけになり、少しずつ食生活への意識を高めてゆくはずだ。さらに、食べものの「命」について考える想像力を育む機会にもなる。

「弁当の日」という実践については、いろいろな意見が寄せられることがあるらしい。というのも、まさにおべんとうの「見せっこ」をとおして、それぞれの家庭環境^{かんきやう}の差^さが③露呈^{ろてい}してしまうからだ。実際に、おべんとうをつくれな生徒、持って行けない生徒が、「弁当の日」の当日に欠席するという。このような「かわいそうな子」が見えないように、給食を食べさせる配慮^{はいりよ}こそが必要だという意見がある。これに対して、「弁当の日」をはじめた竹下和男^{たけしたかずお}（滝宮小学校校長・当時）は、『弁当の日』に欠席したという事実は、⑤その子が社会（親や教師、地域の大人たち、そして仲間たち）に突^つきつけたメッセージ^{メッセージ}なのだと言う。子どもたちのおべんとうづくりを④介^{かい}して、大人たちを成長させる。それによって、健やかな家庭環境をつくろうという呼びかけでもあるのだ。

竹下は、「弁当の日」を二年間経験した卒業生たちに「弁当を作る」という詩を贈^{おく}った。この詩には、いくつもの大切なメッセージが織^おり込ま^これているが、そのなかに、つぎのような⑥⑥がある。

「食材が弁当箱に納まるまでの道のりに、たくさんの働く人を思い描^{おも}いた人は、想像力のある人です」

おべんとうは、⑦⑦食を巡^{めぐ}るさまざまな（もの・こと）を考える「入り口」となる。

（加藤 文俊『おべんとうと日本人』草思社 による）

注1 厨房 Ⅱ 台所

注2 伸長 Ⅱ のばすこと

注3 露呈^{ろてい}してしまう Ⅱ あからさまになってしまう

注4 介^{かい}して Ⅱ 通して

1 —線①『弁当の日』とありますが、この試みの目的としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 朝から手を動かし規則正しい生活を身につけることで自立した人間を育てるため。

イ おべんとうを実際につくつてみることで食について考えるきっかけを持たせるため。

ウ 親の力を借りずにおべんとうづくりをすることで友人との協力の大切さを学ばせるため。

エ 朝早く起きて準備をするという体験をして親に対する感謝の気持ちを持たせるため。

オ 自分で一からつくったおべんとうを食べることで食事ができる環境に感謝させるため。

2 —線②「この試み自体は、『食育』のプログラムとして位置づけられており」とありますが、なぜ「弁当の日」が「食育」というものにかかわるのですか。次の文の（ ）にあてはまるように五十字以内で書きなさい。

自分はおべんとうを（ ）に（ ）。

3 —線③「大きなテーブルの上にカラフルなおべんとうがたくさん並べられている」とありますが、その目的としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 並べられたおべんとうを見て、それぞれの素晴らしさに気づき、ほめる力をつけさせるため。

イ すべてのおべんとうを並べることでカラフルに見せ、「弁当の日」を楽しめるのだと思わせるため。

ウ 自分のものと他の人のものを見比べることで、自分のものが最もすぐれていると満足させるため。

エ 見せっこをして自分の能力が周囲の中でどの位置にあるのかを知り、今後の友人づくりの参考にさせるため。

オ 他と比べることで次のおべんとうづくりへの意欲を持たせ、自分を理解させることにもつなげるため。

4 —線④（ ）にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 素朴な イ 極端な ウ 古風な エ 重要な オ 大変な

5 —線⑤「その子が社会（親や教師、地域の大人たち、そして仲間たち）に突きつけたメッセージ」とありますが、どのような「メッセージ」ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア おべんとうづくりに失敗すると学校に行けなくなるほど厳しい校則を批判している。

イ おべんとうの日に休むことで親や教師から心配してもらいたいと望んでいる。

ウ おべんとうがつかれないような家庭環境にいることに気づいてほしいと訴えている。

エ おべんとうをつくるより栄養バランスの整った給食が用意されるべきだと主張している。

オ 料理に自信がないため自分がつくったおべんとうを皆に見られるのを嫌がっている。

6 ⑥にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 個 イ 節 ウ 冊 エ 句 オ 番

7 —線⑦「食を巡るさまざまな（もの・こと）」とありますが、その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 一つの料理ができあがるまでには、たくさんの労力や時間がかけられているということ

イ 手づくりのおべんとうであっても、使われる食材はすでに加工されたものが多いということ

ウ どんな家庭環境で育っている子どもも同じ栄養がとれる給食制度は素晴らしいということ

エ 私たちは食事することによって多くの生き物の命をいただいているということ

オ 食材が家庭に届けられるまでには、多くの人々がさまざまなにかかわっているということ

8 この文章には次の一文が欠けています。文章中の【ア】【イ】【ウ】【エ】【オ】の中で、この文が入る場所としてふさわしいところを一つ選び、記号で書きなさい。

それは、たとえば食材にかんするあたらしい理解である。

（問題はこれで終わりです）